

* 科目 No.	21101
----------	-------

1. 開設大学	広島大学 生物生産学部	開催方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面(東広島キャンパス) <input type="checkbox"/> オンライン(同時・録画)
2. 科目名	SDGs に向けた生物生産学入門		
	学問分野	番 号	33 名 称 農学(農学, 水産学等)
3. 担当教員	大学院統合生命科学研究科 教員 15名		
4. 開講学期	前期 週 2 ヲマ		
5. 開講期間(曜日) 開講時間	令和5年4月10日(月)~6月5日(月) 12時50分~14時20分、14時35分~16時05分(1日2回)		
6. 募集定員	80人		
7. 科目内容・ 授業計画	現代の人類が抱えている食料・環境問題や資源動植物の生産と生態、食品科学や発酵に関わる微生物について学習し、SDGs 達成に貢献する生物生産学を理解する。15名の教員によるオムニバス形式で、月曜日に2回分の授業を連続で行う。授業内容と担当者、授業キーワードは以下の通りである(順不同)。 【生命の仕組み】 ・生物の基本単位ー細胞とは・生体膜の構造と機能(船戸):細胞/オルガネラ/生体膜 ・タンパク質の構造と機能(三本木):タンパク質/アミノ酸配列/折り畳み ・免疫ー生体防御機構(中江):感染症と免疫 ・動物の情動と防衛行動(吉田):警戒/恐怖/逃避 ・生物多様性と(突然)変異(西堀):生物多様性/遺伝/(突然)変異/形質 【陸の生物生産】 ・乳生産と感染防御(磯部):乳房/炎症/抗菌ペプチド ・土壌の役割(長岡):土壌/植物生産/養分循環 ・ニワトリの本能行動と生産性(河上):ニワトリ/間脳視床下部/攻撃行動 ・家畜化と品種改良(中村):家畜/家畜化/ゲノム育種 【水圏の生物生産】 ・海の生態系を支える単細胞藻類(小池):漁業/海洋環境/社会実装 ・海藻資源と養殖(加藤):生産量/利用/養殖技術 ・魚介類の一生(若林):生活史/幼生/遺伝子流動 【食の科学と利用】 ・食品と健康(山本):食品/有用微生物/生体調節作用 ・食資源の多様性と生物進化(平山):生物資源/環境/適応 ・食品の加工と保存(川井):乾燥/冷凍/凍結乾燥		
8. 受講料	2,000円		
9. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) テキストには「SDGs に向けた生物生産学入門」(三本木至宏監修、共立出版、2021年発行)を使用します。大学生協で購入できます(2,970円(税込))。		
10. 学習記録	交付する		<input type="checkbox"/> 交付しない
11. 科目等履修生	受け入れる		
	単位数	単位	
	受入学年	高校	年生以上(二次募集時 年生)
	試験・評価 特記事項		
12. 開講条件※ あり <input checked="" type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数(人) ② 不開講通知日 (7月7日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月8日(土)以降の開講科目は6月末まで) 受講者についての制限事項、オンライン(同時・録画)の使用ソフト、受講時の注意など		
13. その他特記事項	第1回目の授業でテキストと各回の授業内容を紹介します。それに従って予習をしてください。オンライン開講となった場合には別途、授業形式を指示します。		
14. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ 開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。
 コロナ禍の影響により、対面授業の不開講・休講またはオンライン(同時・録画)に変更になる場合があります。